

教育委員会広報紙 NO.6

～吉原東中学校区の学校教育について～

令和4年4月22日発行
富士市教育委員会
教育総務課 教育政策担当
TEL：0545-55-2865
FAX：0545-53-8584

富士市立吉原東中学校の編入統合の方針決定に伴い、3月28日（月）に保護者及び地域の皆様方への説明会を実施しました。

説明会では、参加された保護者の皆様や地域の皆様へ、教育委員会が考える「これからの時代を生きる子どもたちに求められる豊かな学び」や、編入統合に係る今後の具体的な支援策等について、森田嘉幸教育長からご説明申し上げる機会を設けさせていただきました。

日頃より富士市の教育行政への取組にご理解、ご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

世界がコロナ禍になり、子どもたちにとって非常に不自由で、我慢の日々が3年目になります。このコロナ禍はいつまで続くのか、現時点においても先の見通しがつかず、不安が拭えません。

さらには新たな心配事として、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻も起きています。ウクライナの人々、特に子どもたちの苦しみや痛み、悲しみは、私たちの想像をはるかに超えるものと思われまます。

このような世界の動きは、つい先日まで世界の誰が予想していたでしょうか。現代の社会はあつてはならないことも含め、一瞬で誰も予想できない方向に進んでいきます。

また、私たちの生活は、加速度的なデジタル化やAI技術の飛躍的な進化で大きく発展しました。これまでの現金を利用した買い物は大きく様変わりし、仕事も人の手や知識によってコントロールされたり、生成されたり、判断されてきたりした多くのことがロボットやAIにとって代わっていて、これまでになかった新たな職業も誕生しています。

さらには、少子高齢化の進行によって、働き手となる人口比率の減少とともに、これまでの社会福祉制度等にも新たな動きが必要とされます。

これからの時代は、このように変化が激しく、先を見通すことが困難な時代になっていきます。子どもたちは、これまで当たり前だったことや価値が、そのまま引き継がれるのではなく、新たな形や価値が創造されていく社会を生きていきます。

ただ、どんなに先が見通しにくく、社会の構造や価値が変容していこうとも、子どもたちには社会の変化に柔軟に対応し、周囲の方々と上手に協働し、自分なりの価値を創りながら夢をもって生きていってほしいと願っています。このような思いは私だけでなく全ての親御さん、祖父母の方々がお待ちかと思ひます。

こうした「生きる力」を子どもたちに育むための教育環境を整えるのが、私たちの責任であると思っております。そこで、学校教育におきましては、子どもたちに自ら目の前の事柄の中から問題点や改善すべき課題を発見する力、仲間と一緒に課題を解決する力、多様な視点から事象を見つめて新たな価値を創造する力等を育成していくことが求められています。

就学期に養われた、問題に主体的に取り組もうとする態度や能力は、将来子どもたちが大人になった時に、必ずや生きて働く力となり、子どもたちの人生を支えます。

ただし、学校でこのような学びを成立させるには、相応の学習集団の中で持続的に実施されなければなりません。

学校の現状や今後あるべき学校像を鑑み、富士市教育委員会では、市内全ての学校において、豊かな教育の質を確保していくために、有識者や教育現場の代表、公募による市民等にご協議いただき、「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」を策定し、市内小中学校の適正化を進めております。

吉原東中学校におきましては、これまでの学校教育の中で少人数のメリットを生かしたきめ細かな指導がなされ、温かな人間関係の中で子どもたちは安心して学び、学力をつけてまいりました。それが吉原東中学校の良さであることは言うまでもありません。

しかし、生徒数の減少によって、単学級となる学年が生じております。生徒数がここまでの少人数となると、多様な意見を持った多くの仲間と学び合いながら新たな価値を見出す力を育てていくには、学び合える人数が十分とは言えません。

これまで、子どもたちへの影響を最小限にするため、教員の配置の工夫をしてまいりましたが、教員数の対応では学びの改善には至りません。また、今後長期的に見た生徒数のさらなる減少により、子どもたちを取り巻く教育環境はますます厳しいものになると考えております。

そこで、吉原東中学校における、今後の豊かな学びを成立させるための適正な学校の在り方につきまして、保護者や地域の皆様からご意見を伺いながら検討してまいりました。

そして、これまでの趣旨と経過のもと、適正化に向けた教育委員会としての最終的な方針案を2月の教育委員会会議へ上程させていただき、そこで私と4人の教育委員で協議して、「吉原東中学校は、令和6年4月に吉原第三中学校に編入統合する。令和6年4月の新2・3年生は一斉に編入し、新1年生については吉原第三中学校へ入学する。また、令和5年度末までの吉原東中学校の教育環境を維持するためにも、吉原東中学校区の児童が令和6年4月の編入統合を理由として、令和6年より前に吉原第三中学校へ入学する指定校変更はできないものとする。」となりました。

この結論に至る過程において、様々な方法を検討しましたが、吉原第三中学校の生徒とともに学ぶことが最も教育効果が高いと判断し、このような結論に達しました。

この方針決定に至るまでには、市長に適宜報告し、教育委員と市長とで協議をし、市長のお考えも伺いながら検討してきた経緯もあることをご理解いただきたいと思います。

令和6年4月の吉原第三中学校への編入統合については、今後様々な点について、配慮や検討、対応すべき課題があるものと承知しております。

その中の第一は、編入の対象となる、今年の4月に吉原東中学校に入学した1年生と、吉永第一小学校の6年生の、心への配慮です。

子どもたちや保護者の皆様には、令和6年4月の編入に対して、吉原第三中学校で楽しく安心して学べるだろうかなど、様々な不安を抱えている方々が多いのではないかと思います。

そこで、今後2年間の中で吉原第三中学校との交流を深め、人間関係づくりを進め、共に学ぶことに慣れてもらう中で、少しでも不安を解消し、むしろ吉原第三中学校での学びに期待が膨らむよう取り組んでまいりたいと思います。

登下校におきましては、安全面や通学距離、通学時間の増加による負担についてもご心配かと思っておりますので、今後もさらに検討をしてまいりたいと考えております。また、制服や学用品についてもご心配のことと思っておりますので、できる限りの支援をしてまいります。

また、地域の皆様にとっても、防災やコミュニティなど、学校がまちづくりの大事な場所であることは十分承知しておりますし、長年慣れ親しんできた学校に対する惜別の情は耐え難い寂しさをもたらすものと思われれます。さらに、編入統合後の施設の跡利用についても、大きな課題です。

こうした課題につきましては、今後とも保護者や地域の皆様のご意見を十分に伺ってまいりたいと考えております。

教育委員会といたしましては、児童生徒や保護者、さらには地域の皆様に「編入統合してよかった」と思っただけのよう、編入統合における豊かな学びを保障するとともに、課題となる諸事項について、全力を尽くしていくことをお約束申し上げます。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

富士市教育委員会 教育長 森田 嘉幸

- この件について、ご意見やご要望などがありましたら、富士市教育委員会教育総務課までご連絡ください。



教育総務課メールアドレス 富士市ウェブサイト